

2025年 2月17日

釜石市議会議長 千葉 榮様

総務常任委員会

報告者 深澤秋子

## 行政視察報告書

総務常任委員会による行政視察を下記の通り実施しましたので、報告いたします。

### 1. 視察項目

○兵庫県川西市 「事業の再検証について」

### 2. 視察日程

2025年2月6日（木）～2月7日（金）

### 3. 出席者

総務常任委員会（6名）

磯崎翔太委員長、深澤秋子副委員長、

千葉 榮委員、山崎長栄委員、井筒健太郎委員、遠藤幸徳委員（欠）

当局 総合政策課長 菊地美幸

事務局 川崎 愛

相手方 川西市議会4名

岡 留美議長 稲治惟也企画政策課長 増田絵美企画政策課主査 成川議会事務局

### 4. 視察地概要

川西市は、大阪府との府境に位置し、面積55.44平方キロ、（当市の1/8程度）、

人口約15万人（当市の5倍）

財政データ 予算規模（令和6年度；約1,120億円）

経常収支比率 R3：94.8% R4：98.5% R5：100.0%

予め下記 6 点について質問事項を作成し、川西市議会に送付し、ご教示いただいた。

## 5. 質問と回答

### ①事業の再検証を実施することとなった経緯

本市の財政状況が厳しく、令和元年度予算では、収支不足の補てんのために、基金から 14 億円を繰り入れるなど、厳しい状況にあったため、令和元年度から 3 年間で財政健全化の集中期間と位置づけ、財政健全化に向けた取組みの一環として「全事業の再検証」を行った。

全事業の再検証の目的は、限られた資源で持続可能な行政サービスを行うために、事業の現状を分析、検証し事業や業務の新陳代謝を進め、将来にわたって効果的かつ効率的な行政サービスの提供を目的としている。

また、財政健全化集中期間においては、再検証のほか、健全な財政運営を自律的に行うことを目指した「財政健全化条例」などを実施した。

### ②事業の再検証を実施するためのスキーム

- ア 令和元年度から 3 年間をかけて全ての事業（約 370 事業）を検証
- イ 市の事業担当課が現状の分析や課題を整理するなど、自己検証を実施
- ウ 自己検証に基づき、外部の有識者との意見交換を実施
- エ 外部有識者からの意見などを踏まえて、市の見直し（案）を作成
- オ 見直し（案）に対して、パブリックコメントやタウンミーティングで市民の皆様からの意見を聴取
- カ 市議会との協議を経て市の見直し方針を決定

### ③再検証の対象となる事業

全 374 事業

市債・基金関連の事業の 14 事業は検証なしとした。

### ④再検証後の事業内容にどのような変化があったか

補助金制度においては、より効果的な補助金制度へのみなおしを実施

認定こども園への円滑な入所を図るため、入所選考に AI を導入

民間保育所や民間こども園への運営資金事業では、各施設の備品購入や修繕については減額し、支援児の加配保育士への補助を拡充し、限られた財源で課題解決に取り

組んだ

各所属で自主的に事業の在り方や改善点を考え、継続的に事業を改善していく職場風土を醸成することができた

⑤再検証後の財政運営状況、指数の変化は

令和2年度から令和5年度の見直しにより、合計△414,704千円の影響額があった。

⑥外部有識者の選定方法

行政改革審議会の委員（学識経験者3人、公認会計士、NPO関係者、民間事業者6人）

⑦市民、議会からの理解は

パブリックコメントで市民からの意見を聴取し、市議会との協議を得て見直し方針を決定しているため、理解は得られていると認識している。

6. 主な質疑応答

問：経緯の中に市長が変わったことが大きかったと。基金からの14億円繰り入れは、大きな事業への投入か、累積か。

答：大きな事業というわけではなくずっと財政状況が悪かったことがあって何か対策が必要ということで、全事業いったん見直そうとなった。

問：毎年財調からの取り崩しての予算編成は「まずい」との認識でよいか。市長が新しくなり考え方も変われば締めるところは締めない、立ち行かなくなるということで思い切って変わったということか。

答：その通りです。

問：事業の再検証を行うにあたり議会はどのような働きをされたのか。

答：議会で説明し意見を交わした。理事者側が主体的に動いたことの報告に対して意見をいただくというスタイル。

問：市長のリーダーシップによるところが大きかったということか。

答：一番大きい。それがなかったらできなかった。

問：市民の中で市長が変わったことにより今までの補助金がなくなり不平、批判とかなかったか。

答：結構あります。今の市長のスタンスとして、子ども教育そこに特化して行こうというスタンスです。既に今までのサービスを受けられなくなったことに対して厳しい意見、請願、要望書などたくさん議会にだされた。

問：財源の使い方で、市民向けサービスが減らされてきて、その残った財源をまた別のものに振り替えていくと。

答：そのとおりで、R6年度から「新時代総合プラン」を作成しホームページで公開し、中長期収支見込を毎年ローリングしてだしている。事業検証であつたり行政経営の取組によって捻出したものを例えば子供の医療費の無償化、高校生までという事業に対し新たなサービスをするために既存のサービスを見直そう。そういうことをやろうと。

問：多数の議員が方針に賛成していると市民の意識もかわってきていると。今までの補助金は切られたけれど、別の面で市民のためにその予算が使われているというように意識が変わってきたのか。

答：子育て世帯では、今の市長に変わって充実したという反面、高齢者の方からは今の市長になって高齢者を切り捨てたようだというような声があり、そういう議論になる。こういう理由だからとしっかり伝えるしかない。

問：年間予算が1,120億円。この3年間で4億円くらいの影響があつたと。今後の見通しは。

答：事業再検証の括りではいろいろな事業をやめる話しが進むと具体の数字がみえてくるので見込みは立てた。

問：事業検証して行くとき、今までの事業で一気にゼロにするのか段階的に削っていくのか

答：例えば団体であつたり相手がある場合暫定措置的に75%の25%減、次に半分などのような措置をとったものもある。3年後になくなりますとか予告は行った。

問：減らすのに伴い説明会など開催したか。

答：丁寧にしないと影響が大きい。

問：財源見直すために再検証PDCAサイクルを回し財源確保しなければならないときに、スピード感を上げて検討の期間を圧縮していくことになっていくのか。

答：今議論をしているところで、一旦終わったなどって終わるわけにはいかない。歩みを止めた瞬間おちていくしかない。なにかあがかないといけない。あがいても維持かもしれない。でも歩かなかつたら落ちるしかない。

問：釜石市でも人口規模は違うが、その人口規模に見合った施設の規模にしなければならぬだろうという話しがでている。担当課に施設見直しできないか一旦出したが、自分たちでこの施設はいらぬと言い切れないことが散見された。人口規模が小さいだけにその事業やっている方と顔がみえてしまうその辺だ。

答：正直難しい。顔がみえるからやめられないっていうのは大半。

問：行革チームのような選任の部署と担当部署といろいろやり取りをしていった感じか。

答：当時行財政改革推進課というのがあり3人いた。今は行革と政策が一緒に財政は独立している。

問：仮に市長が変わったとして、元に戻そうとなった時市民の中で混乱し振り回される気もするが。

答：条例に書き、ある意味縛りをつけて、市長が変わったとしても見直しを常にやるっていう姿勢は多分どの首長も変わらない。やり方とスピード感というところが今回の市長は早かった。

問：市民への補助金、国から市への補助金等かわったか。

答：大きく変わったようなイメージはない。

問：釜石市の高齢化率40%、こちらは32%でこれから高齢社会になっていくなかで高齢者への支援、サービスが廃止、見直しの対象になっていることで担当課ではどのように考えたか。

答：全て廃止だけでは厳しい立場となるがゼロか100かという話しではなく、代わりのものを提示している。ある程度説明していけば大抵の方は理解いただいている。

問：全国から視察に結構お見えになるか。

答：議員さんが来られたことにびっくりしている。

## 7. 所感

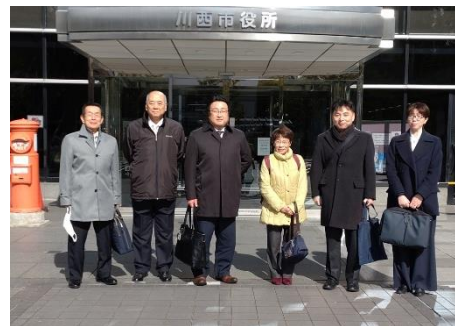
釜石市の復興途上時の予算規模は、現在の川西市とほぼ同じ規模であった。10年が経過し徐々とはいえ人口減とともに、予算規模も縮小され現在200億円程度となっている。そのなかでハード面の復興は完了し、新旧の公共施設の維持管理等が課題となってきている。

川西市の全事業374の再検証は、新市長のリーダーシップのもとPDCAサイクルを回し成果をしっかりと出している経験は、労働人口の減少で税収も減り高齢化に拍車がかかっている釜石市が今後見習うことなのだろう。

川西市のパブリックコメント等見ると、事業の再検証は、市民への行政サービスの低下が危惧されるとの声もある。事業の再検証、つまり行財政改革は、限られた資源を最大限に活用しながら事業を進め財政の健全化と市民サービスの維持向上を目指す取り組みとあるが、釜石市で事業の再検証する場合、小さい自治体であり相手の暮らしが分かり簡単ではないことと思った。再検証は、ゼロか100ではないというところがよりどころか。



川西市での研修中の様子



川西市庁舎入口にて



川西市議会議場にて